

# 暗雲低く

(大正八年寮歌)

熊谷巖君 作歌  
置塩奇君 作曲

一

暗雲低く乱れてし  
怨嗟の聲の収まるや  
逆巻く波も和み来て  
星影淡き東雲に  
平和の光朗々と  
碧緑の海に輝きぬ

二

さあれ意へば泰平が  
やがて醸さん痴惰の夢  
人は安佚を偷むとも  
我には固き自覚あり  
人は驕奢に酔ひしるも  
我には尚武の気魄あり

三

夢深かりし曙の  
霞にまがふ蝦夷が野に  
礎固く営みて  
巍峨とそそれる自由の城  
浮世の塵を低く睥て  
健児の意気を養はん

四

孤城に春の訪れて  
榆樹の匂まだしくも  
北斗の光燦として  
崇き黙示を与ふらん  
雪の色にもたぐふべき  
潔き節操を思はずや

五

永遠に変わぬ希望もて  
理想の華を咲かせんと  
険しき世路に逆ひつつ  
歩み運びし先進が  
光榮の歴史を偲ぶれば  
思出多き十四年

六

いざや勝利の盃を  
平和の女神に捧げつつ  
右手に正義の剣を執り  
左手に自由の楯を持し  
若き血潮の鳴るがまま  
祝ひ謳わん記念祭